令和7年第7回

荒川区教育委員会定例会

令和7年4月11日

於)特別会議室

荒川区教育委員会

令和7年荒川区教育委員会第7回定例会

1 日 時	令和7年4月11日	午後3時00分
2 場 所	特別会議室	
3 出席委員	教 育 長 教育長職務代理者 委 員 委 員 委 員	阿 部 忠 資 繁 田 雅 弘 長 島 啓 記 八 木 敦 子 中 澤 礼 子
5 出席職員	教 育 部 長 教育総務課長 教育施設課長 教育施設担当課長 学 務 課 長 指 導 室 長 教育センター所長 地域文化スポーツ部長 文化交流推進課長 生涯学習課長 スポーツ振興課長 ゆいの森課長 地域図書館課長 書 記 書 記 書 記 書 記 書 記	菊 池 秀 幸 浦 田 寛 士 井 上 千 恵 福 木 妙 子 渡 辺 裕 登 下 条 知 淑 塩 尻 浩 中 野 猛 須 田 具 子 篠 原 啓 輔 野 口 正 紀 岡 村 香 織 秋 元 俊 紀 原 田 正 伸 大 西 寛 和 齋 藤 一 幸 吉 田 夏 彦 宮 島 弘 江

(1) 報告事項

- ア 自発的な活動を行う青年団体等への支援について
- イ 令和7年度社会教育関係団体への補助金について
- ウ 令和6年度「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」の結果について
- エ 伝統工芸技術継承者育成支援事業におけるステップ2への更新について

(2) その他

教育長 それでは、定例会を始めさせていただきたいと存じます。

まず、会議に先立ちまして、4月から教育委員の先生方もお替わりになりましたので、私からまず最初に御挨拶申し上げたいと存じます。

改めまして、教育長の阿部でございます。前教育長の高梨教育長が12年ですね、長きにわたって教育行政を牽引してこられました。その下で私も4年ほど教育部長として務めさせていただきましてけれども、本当に荒川区の教育行政を推進していただいたと思っております。加えて、今回改めて八木先生、中澤先生に御就任いただきまして、さらに繁田先生、それから長島先生、長島先生には前回の学校教育ビジョンの改定でもお世話になりましたし、様々な面で繁田先生にもお世話になっておりますので、先生方のお力をお借りしながらさらに進めてまいりたいと思っておりますので、今後どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、続きまして、小林先生、坂田先生の任期満了に伴いまして、八木敦子先生と、それから中澤礼子先生が着任いたしましたので、お二人から一言ずつ御挨拶させていただきたいと存じます。

では、まず八木先生からお願いいたします。

八木委員 4月から教育委員を拝命いたしました、八木敦子と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。PTAですとか、それから地区委員会ですとか青少年委員、それから保護司としていろいろ携わらせていただいております。仕事のほうは日本語学校の校長をしております、留学生を相手にしております。一生懸命頑張らせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

中澤委員 中澤礼子と申します。よろしくお願い申し上げます。私はひぐらし小学校で6年間PTA会長を務めておりました。今子どもは高校2年生、中学3年生、中学1年生の3人おりますので、現役の子育て保護者として教育のほうに何かお役に立てればと思って受けさせていただきました。何も分かりませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育長 ありがとうございます。

それでは、ただいまから荒川区教育委員会令和7年第7回定例会を開催させていただきます。

出席者数の御報告を申し上げます。本日、5名全員出席でございます。

議事録の署名委員につきましては、繁田委員と長島委員にお願いいたします。

1月24日開催の第2回定例会の議事録を事前にお送りいたしてございます。次回の定例会で御承認についてお諮りいたしたいと存じますので、次回までに確認し、お気づきの点があれば事務局まで御連絡いただきたいと思います。

続きまして、事務局においても人事異動がございました。教育委員会事務局、また地域文

化スポーツ部の幹部職員から自己紹介をさせていただきたいと存じます。

まずは教育委員会事務局から御挨拶をお願いいたします。

教育部長 教育部長を拝命いたしました、菊池と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

私は令和2年、3年に学務課を担当しまして、ちょうどコロナ禍真ただ中だったのですが、故安倍首相が突然テレビで全国休校を現場は誰も知らない中、発表したタイミングで着任しまして、コロナ収束と同時に教育委員会を去ったという形です。その際に繁田先生と長島先生には大変お世話になりました。ありがとうございました。八木先生、中澤先生とは初めてお仕事させていただきま。精いっぱい子どもたちのために尽力してまいりたいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

教育総務課長 教育総務課長を拝命いたしました、浦田と申します。管理職は9年目となりま

して、生涯学習課長を2年、保育課長を2年、選挙管理委員会事務局長を4年、そしてこちらのほうに着任をした次第でございます。学校教育部門は初めてではございますが、教育総務課で各課の事業を下支えしつつ、それから教員の方々の働き方改革、子どもと向き合う時間を確保するために様々な取組を今してございますけれども、さらに充実していきたいと考えてございます。どうぞよろしくをお願い申し上げます。

教育施設課長 教育施設課長を拝命いたしました、井上と申します。昨年度は教育施設計画担

当課長をしておりましたので、ちょっとだけ名前が短くなったという感じでございます。教育委員会2年目になります。学校の子どもたちが安全に使えるような施設をつくっていくと、そういうことを心がけて日々業務をしております。古い学校が多い中で、どのようにしていくかというのは非常に大きな課題とっております。先生方の御意見もいろいろとお聞きしながらこの1年また進めてまいりたいと思います。よろしくをお願いいたします。

教育施設計画担当課長 教育施設計画担当課長を拝命いたしました、福木と申します。これま

では防災都市づくり部の係長としてやってまいりました。教育委員会に配属されるのは初めてなものですから何かと分からないことも多いので、先生方にいろいろと教えていただきながら、様々、学校の建替え計画など進めてまいりたいと思います。今年1年よろしくをお願いいたします。

学務課長 昨年度に引き続き、学務課長の渡辺と申します。よろしくをお願いいたします。管理

職2年目になりまして、その前は指導室で事務係長という形で教職員の人事を担当してございました。以前の瀬下室長や津野室長の部下として、一昨年度までは隣の下条室長の部下として教職員人事を担当しておりましたが、昨年度からは管理職として学務課を担当させていただいています。先生方にはいろいろ助けていただくことが多数あるかと思いますが、よろしくをお願いいたします。

指導室長 指導室長の下条でございます。よろしくお願いいたします。荒川区3年目になりました。もともとは小学校の教員でございまして、校長職を経てこちらの指導室に着任させていただきました。子どもたちのために頑張りたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育センター所長 教育センター所長を拝命いたしました、塩尻浩でございます。どうぞよろしくお願いいたします。昨年までは第四中学校の校長を2年間務めさせていただきました。荒川区はまだ3年目ということですので、まだまだ先生方に教えていただくことが多々あると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地域文化スポーツ部長 皆さんこんにちは。このたび地域文化スポーツ部長を拝命しました、中野と申します。これまで観光振興課長、それから地域図書館課長、企画担当課長、総務企画課長を経験してございます。現場での仕事は久々ですので、また新たにいろいろ学んでいきたいと思っております。

地域文化スポーツ部におきましては、生涯学習、スポーツ振興、それから図書館の業務を担わせていただいております。本日も4件の報告案件がございます。どうぞよろしくお願いいたします。

文化交流推進課長 文化交流推進課長の須田と申します。私は3年目になります。芸術文化事業、あと、文化施設のサンパール、ムーブ町屋、日暮里サニーホールなどの管理などもしております。芸術文化事業におきましては、各学校、教育委員の皆様にもいろいろとアドバイスを頂きながら進めております。今後とも質の高い事業を行っていきたく思っております。そして、教育委員会の皆様方と連携をしてよりよい事業としていきたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

生涯学習課長 生涯学習課長の篠原と申します。生涯学習課2年目となります。本日も御報告させていただく案件がございますが、生涯学習課は、生涯学習ということで子どもたちだけでなく大人の方の生涯の学びを通じて区民の方の地域の活性化に資するようなことで努めているところでございます。子どもたちに向けてはふるさと文化館ですとか、あとは清里のほうで移動教室等で御利用いただいている施設も所管しております。やはり先生方の御意見を頂戴しながら子どもたちによりよい生涯学習の環境を整備できるように今後とも努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

スポーツ振興課長 皆さんこんにちは。スポーツ振興課長の野口と申します。私は昨年に引き続き今年で3年目に入ります。スポーツでございまして、私どももお子さんだけではなく大人の方のスポーツといったものもやっているところでございますけれども、やはり子どもの方に対するスポーツ振興というのは非常に私どもの課の中では重要な位置づけを持っており

ます。スポーツを通じて子どもたちが元気で笑顔になるような施策を展開してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ゆいの森課長 皆様こんにちは。ゆいの森課長を拝命いたしました、岡村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私は課長3年目でございます、2年間は現教育部長、当時の区民生活部長の下でいろいろと勉強させていただいていたところでございます。今年度からゆいの森課長ということで、ランドマークを預かる立場として、図書館行政は初めてでございますけれども、先生方の御指導を賜りながら精いっぱい努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地域図書館課長 地域図書館課長の秋元と申します。昨年度に引き続きまして2年目となります。読書は子どもたちの国語力の上昇だけではなく、豊かな心を育むといった役割があり、非常に重要なものであると認識してございます。これまでも各学校におきましてはブックトークや調べる学習チャレンジ、また町たんけんなど様々連携をさせていただいたところでございます。今後も連携を強め、学校図書館、中央図書館であるゆいの森や地域図書館、それぞれが一体となって進めてまいりたいと考えてございます。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

教育長 ありがとうございます。改めまして、どうぞよろしくお願い致します。

それでは、本日案件がございます生涯学習課長以外の皆様は御退室いただいて結構でございますので、ありがとうございました。

非常にたくさんの管理職がおりましたけれども、もともと私が社会教育課長をやっていたときはみんな教育委員会で一緒だったのですよね。ですからもう常にずっと一緒でした。ちょっと管理職が増えていますが、部長も当然1人いますし、図書館行政も少し分かれていますので、そういった意味では管理職は増えていますが、基本的にはもう教育委員会として一緒にやってきたわけなのですけれども、今は補助執行という形で区長部局と分かれていますけど、教育委員会の一員として生涯学習課長が今日は代表してよろしくお願い致します。

それでは、議事日程に従いまして進めたいと思います。

報告事項が4件ございまして、まず報告事項のAです。「自発的な活動を行う青年団体等への支援について」ということで、生涯学習課長から説明をお願いいたします。

生涯学習課長 では、生涯学習課のほうから御報告をさせていただきます。「自発的な活動を行う青年団体等への支援について」ということで、資料1枚おめくりいただきまして、まずポイントでございます。今年度、令和7年度から実施する青年たちによる団体の活動を支援する新たな事業について御報告するものでございます。

1番の趣旨でございます。青年たちによる活動の初期段階を支援しまして、地域活動の新

たな担い手となる人材の発掘や育成などを行いながら若者の地域活動をさらに活性化することで、将来的には既存の団体である例えば荒川区青年団体連合会などへの加入等にもつなげていきたいという趣旨でございます。

2番の対象でございます。団体補助については、団体に所属する若者がおおむね15歳から39歳の方が5名以上かつ団体に所属する者の過半数を占めていることを要件として設けております。また、区内の地域活動に還元をしていくことを目指しておりますので、団体の主たる活動場所が区内であることを対象の要件としてございます。

(2)の交流会参加助成については、区内在住、在学、在勤の方または区内での青年団体等の地域活動を行っている方、もしくは活動に興味がある方についても対象としたいと考えてございます。

3番の内容でございます。(1)団体補助では、青年が中心となっている団体の活動が軌道に乗るまでの支援というところで、最大3か年を限度として、ホームページの開設費用、通信機器の購入費用ですとか、あとは団体の事業の運営等に係る費用等を助成いたします。予算額は、補助限度額を最大20万円としまして、2団体想定で40万円としているところでございます。

(2)の交流会参加助成では、他都市の青年団体や地域活動を行う団体や個人との交流会に係る交通費ですとか宿泊に係る経費等を助成いたします。予算額は1人当たり最大5万円を補助限度額としまして、10人程度の想定として予算額50万円としているところでございます。

雑駁ではございますが、御説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

教育長 ただいまの説明について、何か御質問ございますでしょうか。

繁田委員 新しいということで、初めての試みということですね。分かりました。

基準が5名以上で区内の活動ということ、普通に考えるとかなり数があるかなと、候補があるかなと思うのですが、その選考はどんな形で、あるいはどういう基準でお選びなのかというところももし定まっているようでしたら教えていただきたいです。

生涯学習課長 ありがとうございます。団体の要件として、まず若い方たちへの支援とは別の制度で、社会教育関係団体という制度がございます。そちらの要綱なども参考にしまして、まずはこの人数が5名以上であるという要件を設けさせていただきました。実際に地域活動をされている団体が御指摘のとおり多数ございます。ただ、この中で若い方が過半数を占めているとなると結構限られてくるのかなと思ってございます。

また、いわゆるプライベートなといいますか、個人の趣味に近いような団体活動を支援するという目的ではなくて、地域活動につなげていくということを想定しておりますので、これ

までの活動の実態として区が接点を持っている団体でいいますと、アートを通じた子どもの居場所づくりというワークショップのようなもので子どもたちを集めて形を作っているという、そういった活動をしている団体がございます。そういった形で、自分たちの趣味というよりは地域に還元していただけるような活動団体というところで、一定絞られてくるのかなと考えてございます。

また、参考までに申し上げますと、生涯学習センターというところで地域活動を始めたいまたは団体を立ち上げたいという御相談はこれまでも受けております。そういった中で、例えばこの想定を超えるすごく多い団体がこの助成を求めて申請して来るという状況には、現状としてはまだないかなと思っておりますので、そういった若い世代、大学生を中心にした団体の立ち上がりとも接点を持っておりますので、そういったところの初期段階を支援してどんどん地域に広げていきたいということで選定してまいりたいと考えてございます。

繁田委員 分かりました。ありがとうございました。特に異論はございません。

教育長 ほかに何かありますか。

八木委員 ちょっとお聞きしたいのですが、荒川区青年団体連合会などへの加入等につなげるということですが、現在、荒川区青年団体連合会は活動をしていますか。

生涯学習課長 青年団体連合会についての御質問でございます。まず、青年団体連合会は現在7団体が集まる団体として活動実績がございます。昭和43年に設立しております、長年地域活動をしていただいているところではございます。主な活動としては、このところというと毎年3月に青年大会で、あらかわ遊園のアリスの広場というところを使って音楽活動ですとかダンス活動を発表するイベントで、アリストックという言い方をしておりますが、そういったイベントの実行委員会の中心になって活動していただいているところでございます。

また、一つだけ課題といえますが、青年団体連合会が抱えているところでいいますと、設立された昭和40年代はかなり地域活動も盛んであったということで、こういった団体があることで非常に多くの方が集まっていたところではあります、時代の流れとともに青年団体として集まってくる人数というのは大分減ってきていると。現在は7団体、トータルでいうと100名強ぐらいの団体になっております。そういった中でメンバーが固定化して、今申し上げた青年大会ですとか、あとは区の事業協力として川の手まつり、そういった固定したイベントに活動が限定的になってきてしまっているところも一つ課題でありまして、そこにいかに若い方たちをまた巻き込んでいくかということが今後の青年団体連合会の課題でもあるというところで、こういった地域活動を始めている団体がイベントごとに連合会と接点を持てるように、交流を持てる機会を区としてはつくっていき、そして青年団体連合会の

活動がさらに活性化していくようにもっていかれば望ましいなということで、支援してまいりたいと考えてございます。

八木委員 ありがとうございます。

教育長 ほかに何かございますでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

教育長 では、この件につきましては終了したいと存じます。

続きまして、報告事項のイになります。「令和7年度社会教育関係団体への補助金について」です。生涯学習課長から御説明をお願いいたします。

生涯学習課長 「令和7年度社会教育関係団体への補助金について」御報告させていただきます。

ポイントでございます。この交付に当たりましては、社会教育法第13条の規定に基づきまして、社会教育委員の会議で意見を聴取したところ、下記のとおり了承されたもので、御報告させていただくものでございます。

内容でございます。生涯学習課所管分が、団体補助として8件、事業補助として11件の計19件。教育総務課所管分として、団体補助が2件、事業補助が1件の3件。スポーツ振興課所管分が事業補助3件でございます。

簡単ではございますが、説明は以上です。よろしくをお願いいたします。

教育長 ただいまの説明につきまして、何か御質問ございますでしょうか。

長島委員 補助金額で1,000円単位になっているところと、そうではない、もっと大きなまとまりになっているところがあると思うのですが、どういう違いなのか。そこら辺をちょっと教えてください。

生涯学習課長 まず、金額については、過去の経過も含めて団体とコミュニケーションを取りながらこの間設定してきているところがございます。例えば1番から4番までの母の会を中心とした団体というのが、例えば子ども食堂にスタッフとして応援に入ったりだとか、そういったことであったり、活動をしていただいている中で、正直ベースで申し上げると、過去から10万円という金額で来ているところがございます。

その他、荒川区少年団体指導者連絡会ですとか荒川区青年団体連合会ですとか、こういった団体につきましては、活動実態に沿って都度都度コミュニケーションを取りつつ、必要な経費を把握して団体補助をしているところで、個別に判断をさせていただいているところがございます。

参考までに申し上げますと、7番、8番は先ほど申し上げました新しい制度において御相談いただいている団体でございます。

長島委員 分かりました。ありがとうございます。

教育長 今のお話ですと、先ほど御報告いただいた自発的な活動を行う青年団体等への支援についての御相談が7番と8番で出てきていると、そういうお話ということなのですか。

生涯学習課長 御指摘のとおりで、既に相談を受けているところでございます。

教育長 ほかに何かございますでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

教育長 それでは、この件につきましては以上で終了したいと思います。

続きまして、報告事項のウ「令和6年度『奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会』の結果について」です。生涯学習課長から御説明をお願いします。

生涯学習課長 ただいま御案内いただきました「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」の結果を御報告させていただくものでございます。

令和6年度の本大会は、荒川区が俳句のまちを宣言しまして10周年の記念事業として開催いたしました。コロナ禍で取りやめておりました千秋楽に土俵上でパフォーマンスする大会形式を5年ぶりに実施させていただきました。その結果を御報告いたします。また、コロナ禍で進めてまいりました動画撮影によるアーカイブ配信につきましてもこの後進めてまいりたいと考えてございます。

今大会では、区内の小学校17校153チームから予選の申込みがございまして、荒川区俳句連盟により選句されました8チームが千秋楽として準々決勝から決勝までを競い合いました。

大会の概要でございます。項番2に記載のとおり、3月22日の土曜日に荒川区総合スポーツセンターの小体育室にて実施をいたしました。千秋楽に出場した8チームが在籍しております小学校は記載の7校でございます。当日は、優勝を横綱としまして、記載の8部門での表彰を行いました。大会運営に際しましては、呼び出し・行事を荒川区相撲甚句有志の会。

寄せ太鼓につきましては荒川区大太鼓連盟に演奏いただきましたほか、文化財保護推進員の皆様にも会場スタッフとして御協力を頂いて実施したところでございます。

対戦結果につきましては項番5に記載のとおりでございます。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

教育長 ただいまの説明について、何か御質問ございますでしょうか。

長島委員 結果について、例えば優勝したチームの俳句がどんなものだったかとか、そういうのを確認するにはどのような手段がありますか。

生涯学習課長 一つは、まずそれぞれのチームが考えました俳句については大会プログラムのほうで掲載しておりまして、ホームページ等にも掲載してございます。また、先ほど申し上げ

げましたアーカイブ配信という形で、今、映像撮影を委託しております、編集作業をお願いしているところでございます。その編集作業が終わり次第、区のホームページで動画についても公開をしてみたいと考えてございます。子どもたちが俳句を詠みながらバットを持つしぐさだったり、桜の花びらを舞わせたりと、そういったパフォーマンスも含めた審査という形になっておりますので、動画を公開させていただきましたらぜひ御覧いただければと考えてございます。

教育長 ほかにございますでしょうか。

この俳句相撲大会については平成19年度、ちょっと昔の話ばかりで申し訳ないのですが、ちょうど私が社会教育課長をやっていたときに始めたものなのです。平成19年度だと思います。平成20年の2月だか3月だったか、結構覚えているのですが、違いますか。

生涯学習課長 平成20年の3月に第1回目です。

教育長 ですよ。これ何でよく覚えているかということ、青年会議所が俳句相撲ではなくて子どもわんぱく相撲をやっているのです。そこで着ぐるみみたいなものをお借りして、課長だったので着ぐるみを着て、それで司会というか、そういうのをやった覚えがあります。もともとのきっかけは、その当時、千住論争というのがありまして、奥の細道旅立ちの地が北千住なのかあるいは南千住なのかという千住論争があって、圧倒的に北千住が強かったのです。要するに北千住が千住旅立ちの地であると。ところが、いやいや荒川区は南千住だと言っても、圧倒的に北千住が強い。荒川区の主張としては、南千住で松尾芭蕉が江戸のうちで御挨拶をして、その千住大橋を渡っていったのだと、そういう主張をしたのです。ですから南千住から旅立ったのであるという、そういう主張をしていたのですが、圧倒的に北千住のほうがその当時強くて、北千住側のほうにはもういろいろなアートみたいなのがあったり記念碑があったのです。その当時私が社会教育課長で、荒川ふるさと文化館の野尻学芸員と話をして、やはり南千住をもっと盛り上げていかないといけないということで、南千住が旅立ちの地であれば結びの地と交流をしよう。結びの地が大垣市だったのです。大垣市とはあまり交流していなかったので、当時の西川区長にも話をして、大垣市へ行って話をきて、南千住は旅立ちの地、結びの地は大垣だと、これを進めていきたいという話で、私と野尻と当時の観光課長と3人で行って、大垣市と話をしてきたのです。

そこで大垣市からいろいろな知恵を頂きました。大垣市は子ども俳句相撲をやっていたのです、その当時。やはり大垣市はもう俳句に対してすごく熱心に取り組んでいて、いろいろなところに俳句の碑があったり、子どもたちが投句したものも飾ったりしていて、圧倒的にすごくレベルが高かったのです。初めて平成20年に荒川区で子ども俳句相撲をするに当た

って、大垣市のチャンピオン、要するに横綱を呼んだのです。横綱を呼んで荒川区の子どもたちと競わせたのですが、もう圧倒的に負けてたというのが私の記憶です。

その当時の校長先生方はかなり奮起をして、このままで終わらせないぞみたいな。それが平成20年のときだったのです。それから私が教育部長になったときに、逆に荒川区の子どもが大垣市に行ってチャンピオンになったのです。横綱になったことがあった。それを私も目の当たりにして、本当に隔世の感があるというか、荒川区の校長先生をはじめ、子どもたちが頑張ってくれたのだなという思いがあって、それが脈々と続いて今になっているので。

しばらくコロナ禍でありましたけれども、俳句文化については、生涯学習課だけではなくて観光振興課も含め、荒川区は俳句のまち宣言、本当にその後進んでいったので、私もちょうどその黎明期といいますか、初めに携わった者としては今の荒川区における俳句文化の振興というのは本当にうれしく思います。

大垣市に目をつけて、大垣市に行ったときにもやはり旅立ちの地は北千住みたいな、碑がありました。今は千住といえば南千住なのか北千住なのか、別にどちらでもいいではないかという話をしながら、そういった論争をしながら盛り上げていこうという機運が生まれているのでいいですけど。そういったことから、荒川区は俳句甲子園にも力を入れているので、この俳句文化というのが根づいてきたことは本当にありがたいというか、うれしいなという思いがあります。今は大垣市から来ないのですよね。

生涯学習課長 はい。

教育長 以前は来ていましたよね、大垣市からも。

生涯学習課長 そうですね。以前は来ていただいたこともあるのですが、今現在は区内の小学校のみという形になります。

教育長 逆に行くほうはどうなのですか。

生涯学習課長 今、大垣市との交流の中でいうと、俳句事業は文化交流推進課が中心となってやっているということで、都市交流という観点の中で大垣市とは今でもコミュニケーションは取っている状況でございます。

一方で、昨年度ふるさと文化館のリニューアルということで、この教育委員会にも検討状況を御報告させていただいているところなのですが、南千住を盛り上げるという意味では、ふるさと文化館のリニューアルに際してより俳句を感じられるような、そういった施設づくりも含めて検討している中で、地域文化スポーツ部も新しい体制となりましたので、併せて一緒に大垣市を見にいくだとか、そういったことも進めていきたいなと考えているところでございます。

教育長 ぜひ大垣市ともさらに交流を進めていってもらえればと思います。すみません、昔話

をしてしまって。でも大変うれしいことだったので、ちょっとお話しさせていただきました。
では、この件についてはよろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

教育長 それでは、続きまして報告事項です。「伝統工芸技術継承者育成支援事業におけるステップ2への更新について」でございます。生涯学習課長、お願いいたします。

生涯学習課長 「伝統工芸技術継承者育成支援事業におけるステップ2への更新について」御報告するものでございます。

ポイントでございますが、令和7年度における本事業について、保持者及び継承者の意見を聴取した結果を御報告させていただきます。

内容でございます。まず、短期現場実習生（ステップ1）から弟子入り修業（ステップ2）への更新結果でございます。今回、ステップ1で実習をしていたのは1名でございまして、その方がステップ2へと引き続き進んでまいります。ステップ2へ進んだ実習者は額縁の吉田一司さんのところで実習を行っております宮本ゆきさんでございます。

そのほか、次いで弟子入り修行（ステップ2）を継続している方の御紹介につきましては記載のとおり、鍛金の長澤さんのところにいらっしゃる熊木花帆さん、それから寄席文字・勘亭流・江戸文字の中村さんのところにいらっしゃる手塚摩子さんが引き続きステップ2で修業を継続しているという状況でございます。

次に、ステップ2の補助内容でございます。継承者への研修手当としまして月額で5,000円、保持者の方へは材料費補助として月額1万2,000円、それから継承者への家賃補助として月額3万円、研修手当の交付期間終了後に区内に引き続き居住する者には最長2年間の家賃補助、月額3万円を支給するものでございます。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

教育長 ただいまの説明について、何か御質問ございますでしょうか。

繁田委員 現状で、ステップ1と2の人数は合計で何人ずついらっしゃるのですか。

生涯学習課長 現在、ステップ1はこの3月まで宮本さんお一人でございました。ステップ2に進みまして、今現在ステップ2の修業に入っている方が合計3名という状況でございます。

繁田委員 もう一つよろしいですか。ステップ1と2の違いは年数的なものなのですか、内容として違いがあればちょっと教えていただきたいのですが。

生涯学習課長 ステップ1については、まずは本格的に職人を目指して修業をしていくかどうかの本人の意欲であったり資質を含めて判断をさせていただく期間として、3か月という期間を設けさせていただいております。その中で、まずはお試的に修業に入ってみて、御本人も引き続き修業をして荒川区に住むという、修業期間中は荒川区内に住んでいなくてもい

いのですが、修業を終えた後には荒川区に住んでこういった伝統工芸技術を継承して普及していくところに御尽力いただきたいという思いを込めていますので、そういった部分で荒川区に住むことはないという御意見でステップ2に入らずにステップ1で終了する方もいらっしゃるし、修業の中でちょっとこれは自分には向かないなということで、保持者の方と相談の上、継承者と相談の上でステップを更新していく形になってございますので、まずはステップ1は短期的にお試しでやってみるという位置づけでございます。

繁田委員 分かりました。ありがとうございます。

教育長 ほかにいかがでしょうか。

ちょっと私のほうから。これは何年ぐらいやっているもので、今まで延べ何人ぐらいの方が実際職人として活躍されていらっしゃるのかというのをちょっとお聞きしたいです。

生涯学習課長 すみません、ちょっとお調べするのにお時間いただければと思います。

教育長 後ほどでもいいのですけれども。結構前からやっていたかなという記憶があるのですが、そんなに古くはないかなと思うのですが。

生涯学習課長 大変失礼いたしました。平成22年から始めてございまして、今現在継承終了している方が18名いらっしゃいまして、修業を継続されている方が3名いらっしゃるという状況でございます。

教育長 その18名の方というのは実際に職人として、荒川区内でやっていたらっしゃるのか外に出たとかあると思うのですけれども、それはどんな状況でしょうか。

生涯学習課長 18名の方に継承終了して職人となっていただいております。うち、7名の方が区外にいらっしゃるのですが、引き続き師匠が荒川区内にいるということがありますので、区外の方においてもお仕事自体は荒川区に来ていただいたりということで、交流のある中で18名の方については引き続き伝統工芸の普及に御尽力いただいている状況でございます。

教育長 そうしますと、11名は区内に住んでいらっしゃるのですか。

生涯学習課長 はい、おっしゃるとおりです。

教育長 分かりました。せっかくですから、やはり職人の育成というのは大事ななと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

ほかに何かあればですけども、よろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

教育長 では、この件につきましては以上で終了したいと思います。

次に、その他の報告事項になりますが、教育委員会の日程について、事務局から何かございますか。

教育総務課長 今日は退職校長の感謝状贈呈式、教育委員の先生方、4時から隣の304会議

室で執り行いますので、かいつまんで御説明をさせていただきます。

資料でいきますと13ページでございます。まず、定例会、本日のところは書いてはございませんが、第2、第4金曜日の、今日は3時からでございましたが、基本的には午後の2時からこちらの特別会議室で行わせていただきます。5月23日、それから10月24日、こちらは小学校、中学校の視察を兼ねた取組となっておりますので、御承知おきいただきたいと存じます。

14ページ、15ページをお開きください。中ほどの3番の「その他の予定」のところです。先ほど生涯学習課長のほうから御説明があった技術者の育成というところに関連する、7月4日金曜日はスポーツセンターで大々的に「あらかわの伝統技術展」というイベントで、保存会の皆様が結集してブースを出して開催いたします。加えて、ふるさと文化館にはギャラリーを新たに設置して、その技術者さんたちの技術を御披露するコーナーも設けてございますので、この1年間の中のどこかで御紹介ができればよろしいかなと考えているところでございます。

そのほかこちらに記載のとおり、14ページの中ほどから15ページにかけて、様々な事業についても教育委員の先生方に御覧いただく機会を丁寧に設けていきたいと考えてございます。

本日のところは、これからきちんと具体的に事業の説明をしていきたいと考えてございますので、後ほど御覧いただいて、御不明な点がございましたら都度電話なりメールなりでお問い合わせいただければと存じます。

大変雑駁ではございますが、説明は以上でございます。

教育長 ありがとうございます。何かスケジュールの点でありましたら、よろしいですか。

それでは、以上をもちまして教育委員会令和7年第7回定例会を閉会いたしたいと存じます。ありがとうございました。

了